

イギリス留学便り

随分とご無沙汰しておりました、茅野です。みなさんお変わりありませんか。退職する際には多くの方々に迷惑をかけ、最後には背中を押していただいた私の務めとして、この場をお借りして、近況をご報告したいと思います。THMSを退職し、ウガンダで働いていた際に多くの感染症が家畜のみならず、農家をも苦しめているという現実を知りました。世界中の多くの国、特に低・中所得の国々では今なお多くの感染症が人々に牙をむいています。感染症がどのように拡がっていくのか、また、どういった対策が有効なのか。そうした答えを求めて、帰国後は北海道大学で感染症の研究をしていました。大学では人の感染症、特に風疹について研究をしていましたが、当然獣医学からだけではない「ヒト」の医療側からの視点も必要となります。運よく留学のための奨学金をゲットすることができ、現在はイギリスのリヴァプールにある熱帯医学校(Liverpool School of Tropical Medicine)へ留学して公衆衛生を勉強しています。



公衆衛生というと、皆さんはどんなイメージを持たれるでしょうか。中には“公衆便所”を思い浮かべる方もいるかもしれませんが、中らずと雖も遠からずです。公衆衛生とは**集団や社会全体の健康を保持、増進していく活動**をいい、母子保健や感染症予防など実生活の多くに影響しています。日本ではあまり聞きなれないかもしれませんが、海外では医療に携わる人のみならず、役人や研究者、または私のような獣医師など多くの人が勉強しています。私の通うリヴァプール熱帯医学校はそうした課題に対して熱帯地域に焦点をあてた世界初の学校らしく、外観は結構古いです(写真上)。



同級生はバックグラウンドも国籍もばらばらで、なんと今年は約 30 か国からの留学生がいます(写真中)。そんなバラエティに富んだ同級生たちと途上国の今抱えている課題を話し合い、また最新の研究データなどを共有しながら学んでいます。学校生活はハードで、暗記をするようなテストよりも、自分で考察してまとめるというようなレポートが課せられることが多く戸惑います。日本とはまた違うスタイルで 30 歳を超えてからの再スタートです。毎日頭をひねりながら英語と格闘しています。

リヴァプールはご存知の方もいるかもしれませんが、サッカーとビートルズの街です(写真下)。街にはビートルズになじみのある場所が多くあります。日本でいうと大阪のようなポジションらしく、人はあたたかいのですが、なまりがすごく強く、いまだに現地の人が何を言っているのかわかりません。せっかくなので英国の酪農事情です。牛よりも羊のイメージですが、実際に羊肉の消費量が世界 5 位(日本:144 位)[※]で、ちなみに牛乳の生産量は 10 位(日本:22 位)です。大体日本人の 3 倍の消費量とされています。牛乳は 3 種類 Whole milk(成分無調整牛乳、いわゆる牛乳)、Semi skimmed milk(低脂肪乳)、Skimmed milk(無脂肪乳)があります。日本は多くの市販牛乳が(超)高温殺菌のところ、イギリスでは低温殺菌が主流だそうで、購入して 1 週間くらいするとバター?のような沈殿物ができてしまうのが衝撃的でした(味には問題なし)。チーズの種類が豊富で値段も日本と比べるとお買い得なのが嬉しいところです。



5 月から修士論文の研究のために2か月間ケニアでキソプラズマの研究をする予定です。牛ではありませんが、豚を相手に久しぶりの採血…ドキドキです。1 年間の留学なので、今年の 8 月には帰国します。また次はケニアの酪農事情や研究に関連した報告をできればいいなと思っています。別海・中標津は冬の寒さが厳しくなってくる時期だと思いますが、お体には十分気を付けてください。運転も本当に、十分に、気を付けてくださいね。

[※]GLOBAL NOTE(国際統計)より引用